

第一節 人生は大きな流れの中で

数々の力や流れが働く世の中

人間の力を超えたところで

ガリレオは、論争に巻き込まれながらも、太陽の周りを地球が自転しながら公転しているという地動説を唱え、月の満ち欠けなどを発見し、名声を博しました。また、ニュートンは、りんごの実が下に落ちることから、宇宙においても質量を持つ物体同士が相互に引き合っているという万有引力の法則を発見したことで有名です。現代においては、誰もが当たり前と思っている知識でも、その事実には人々が気付いていない当時は大発見であり、だからこそその名が語り継がれてきたといえます。ただし、地球の自転や公転、また引力も、人間が生み出したものではありません。同じように、潮の満ち引きがあることや、水が零度以下で凝固すること、人の体が兆単位の細胞から成り立っていることなども、も

もとあつた仕組みが解明されてきたにすぎません。そうしたことは、人間の範疇はんちゆうを超えたものなのです。

物事がうまくかみ合いながら

この世には、天体の動きや生態系など、仕組みの異なるものが多数存在し、それぞれの力や流れが働いています。その中でも、全ての事象がぴつたりとかみ合いながら回っているといえます。例えば、太陽の表面温度は約六千度、太陽を取り囲むコロナは百万度を超す温度でも、約一億五千万メートル離れた地球では、生命体が生存できる温度になっていきます。その地球には、多種多様な生物が存在しているにもかかわらず、食物連鎖や寿命があるため、海が魚であふれることはありません。陸地に降った雨が川から海へと流れ、蒸発して雨に…と循環すればこそ、地表が海水に覆われることもないのです。

仕組みに沿うか否かで

こうした大きな仕組みの中に、人は生を受けています。ですから、それらを無視し、変えようとすれば、バランスを乱します。山を次々に切り崩し、森林を破壊すれば、生き物が生息できなくなり、動物が食料を求めて田畑を荒らすようになったり、山崩れが起きたりということもなってしまうのです。また、チューリップなら、春に合わせて育てるところにきれいな花を咲かせますが、時期を誤ると、快適な環境の下で成長できず、本来の姿になりきれないかもしれません。手こぎボートで川を進む場合、上流にさかのぼるのは